

図書館でのよりよい医療情報提供のあり方を考える 2024
 ~市民の課題を解決する図書館であるために~
 医療者が知ってほしい、理解してほしい医療情報

がんの基礎知識、標準治療の考え方、 気を付けてほしい情報

国立がん研究センターがん対策情報センター本部
 副本部長 若尾 文彦



わが国のがんを取り巻く状況

- ✓ 死因の第一位、死亡の1/4
 - ✓ 2人に1人が生涯でがんと診断
 - ✓ がんの5年生存率は64.2%
- インターネットで「5がん種(肺、乳、胃、大腸、肝)X(治療/治癒)」で検索し、上位20の247サイトを確認
- ✓ 科学的根拠に基づく 10.1%
 - ✓ 間違った有害な情報 38.5%
 - ✓ どちらでもない 51.4%
- 世論調査(平成28年)では、
- 2人に1人がかかると思う人は 31.3%
 - 5年生存率が50%以上と思う人は 29.5%
- ➡がんは稀な珍しい不治の病➡他人事

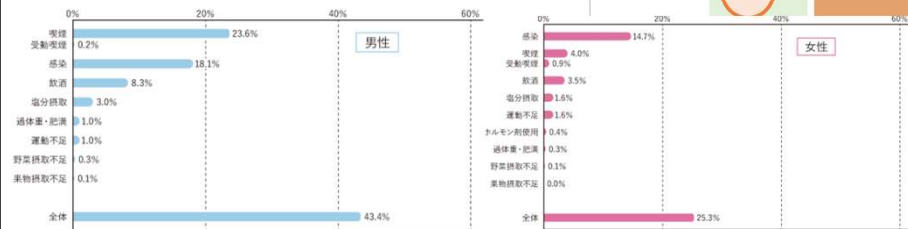
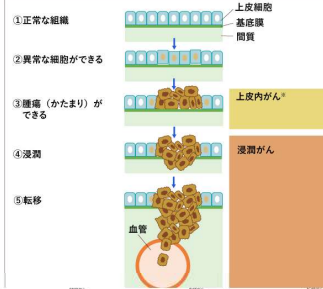
- がん検診を受けない
- がんと診断されて、頭が真っ白
- 慌てて仕事を辞めてしまう...
- ネットで見つけた**広告**や科学的根拠に基づかない情報に飛びつき、治療の機会を逸する

がんに関する最低限の基礎知識と信頼できる情報を在りか
 を知っておく



がんの発生に関する基礎知識

- がんとは、細胞の遺伝子が傷つくことによって起こる病気
 で、**誰にでもなる可能性がある**。
- 遺伝子に傷をつける要因として、**喫煙、過度の飲酒**などがあるが、**男性の6割、女性の7.5割は原因不明**である。
- **一部のがんを除き、がんは遺伝するものではない**。
- 感染症によるがんもあるが、**がん自体が人から人に感染することはない**。



がんの予防・検診に関する基礎知識

- **がんを防ぐための生活習慣**を守ることのでがんのリスクを減らすことができる。
 ➢ **がんを完全に防ぐことはできない**
- がんは早期には、自覚症状がないことが多く、**がん検診を受けないで見つけられない**
- **科学的根拠のあるがん検診**を定期的に受診することでがんでなくなる方を減らせる。

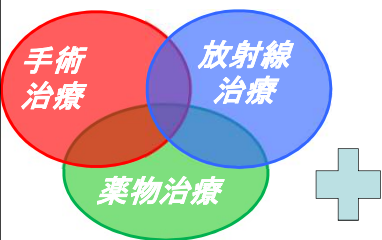
科学的根拠に根ざしたがん予防ガイドライン
 「日本人のためのがん予防法 (5+1)」



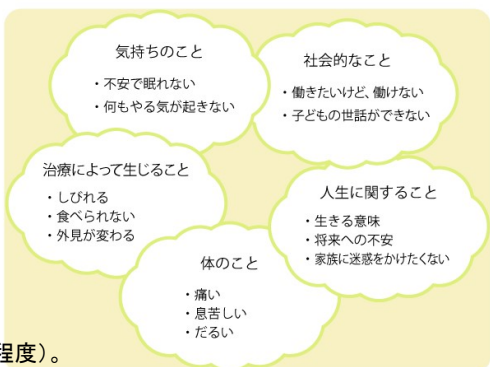
種類	検査項目	対象年齢	受診間隔
胃がん検診	胃部X線検査 または、胃内視鏡検査	50歳以上	2年に1回
大腸がん検診	便潜血検査	40歳以上	1年に1回
肺がん検診	問診および胸部X線検査 および喀痰細胞診	40歳以上	1年に1回
乳がん検診	マンモグラフィ	40歳以上	2年に1回
子宮頸がん検診	細胞診	20歳以上	2年に1回

がんの治療に関する基礎知識

がんの3大療法 > 単独または、組み合わせで実施



がんそのものによる症状や、がんの治療に伴うつらさを和らげる緩和ケアを診断された時から始める



- > 入院期間は短くなっている(平均10日程度)。
- > 薬物療法を外来で受けることが多くなっている。
- > モルヒネなど麻薬を使っても麻薬中毒にならない。
- > 食事や健康食品でがんを治すことはできない。

標準治療と最新治療

- 標準治療 ≠ ふつうの治療
- 標準治療 = 最善・最良の治療
- 最新治療 ≠ 最善・最良の治療
 - 最新治療とは実験的・研究的治療のこと

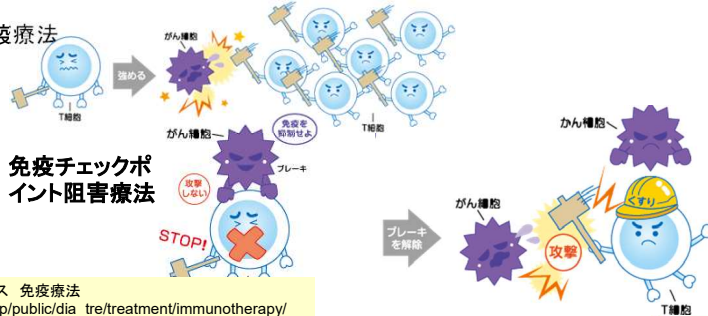
※最新治療、最先端治療などを語った自由診療もある。
 > ヒトに対する有効性の科学的根拠がない(臨床試験をしていない)
 > 10年以上前のもの、あるいは古いもの焼き直し



免疫療法

- 「免疫療法」は、免疫の力を利用してがんを攻撃する治療法
- 「効果が証明された免疫療法」は限られている
- 「効果が証明されていない免疫療法」のうち、「自由診療として行われる免疫療法」は、治療効果・安全性・費用について慎重な確認が必要
- 「効果が証明された免疫療法」にも副作用がある

従来の免疫療法



情報を見極めるヒント

新しい情報を見つけたとき、懐疑的・批判的に吟味する

- | | | |
|---|-----------|--------------|
| か | 書いた人は誰 | 信頼できる発信源か |
| ち | 違う情報と比べたか | 他と異なっていないか |
| も | もとネタはなに | 何に基づく情報か |
| な | 何のために | 広告や商売目的ではないか |
| い | いつ | 古くないか(3年めど) |

これらの情報がないものは見る価値もない

公共図書館でがん情報を発信

- ・ がんと診断されていない方が生活の中で来る場所
- ・ 全国に3,310館(町村立630館)※、小さな町村にもあり、だれでも利用可
 - がん診療連携拠点病院(461か所)より身近な存在 ※2023集計
- ・ 社会教育施設としての様々な可能性
 - 地域の勉強会なども開催できる
- ・ 高いコミュニケーション力を有し、情報の整理整頓が得意な司書が常駐
 - 近くの拠点病院のがん相談支援センターなどと連携することで、医学的知識を増強できる

これまで届かなかった人に信頼できるがん情報を届けることができる

財源として皆様方のご寄付を
活用させていただく



おわりに

- ・ がんは生涯のうち2人にひとりがかかる病気、5年生存率も60%を超えている
- ・ 世の中には、科学的根拠に基づかない情報が溢れている。
- ・ 科学的根拠に基づかない最新治療などを選択することで、命を縮めてしまうことがある。
- ・ 医療が高度化・複雑化し、情報の確実性を判断することは容易ではない。
- ・ 公的な機関である、行政機関、がん相談支援センター、がん情報サービスなどは、信頼できる情報源として活用できる。
- ・ がん情報ギフトプロジェクトにより、身近な生活の場である図書館で、信頼できるがん情報を届けることを目指している。

がんについて
確かな情報が見つかる

がん情報サービス ganjoho.jp

国立がん研究センター運営 WEBサイト
がん情報サービス

がんの症状や検査、治療法のほか療養中に使える制度、お金のことなど幅広い情報をお届けしています。

※ネットで検索
がん情報サービス ganjoho.jp

がんについて
誰でも無料で相談できる

がん相談支援センター

がん相談の専門家が、あなたに必要な情報を一緒に探します。誰でも無料で相談できます。
(※国庫費400万円のがん相談支援センターに設置されています)

03-6706-7797
0570-02-3410

がん情報サービスサポートセンター
お近くのがん相談支援センターをご案内します。

ganjoho.jp